

飼料値上げ幅過去最大

全農供給価格 7～9月期 1.1万円

外国為替市場で円安ドル高が進んでいることが、値上

げの主な要因だとしている。一方、JA全農は値上げ後の価格や、地域や銘柄による個別の価格については明らかにしていない。

も四千三百五十円上がっており、この三期で計一万八千六百五十円値上がりすることになる。政府は飼料価格の高騰時に国民の基金から農家に補助金を交付する仕組みを活用し、農家への影響緩和や畜産品の値上がり抑制を図っている。

全国農業協同組合連合会（JA全農）は二十二日、家畜の餌となる配合飼料について、七～九月期の農家への供給価格を四～六月期と比べて全畜種の全国平均で一ト当たり一万二千四百円引き上げると発表した。値上げは三期連続。これまで過去最大の上げ幅は昨年四～六月期の五千五百円だったが、その二倍以上の大幅な値上げとなる。

JA全農は配合飼料の国内シェアの約三割を占める。ロシアに依存するウクライナ侵攻の影響でトウモロコシなどの飼料穀物の国際相場が上がっていることが、

